

発行所
長野県保険医協会

〒380-0928長野市若里1丁目-5-26

電話 026(226)0086

FAX 026(226)8698

E-mail nagano-hok@doc-net.or.jp

年間購読料 3,600円(会員の購読料は会費に含まれています)



長野県保険医新聞

2013年(平成25年)11月25日

No.393(毎月1回25日発行)

(1990年6月22日第三種郵便物認可)

主な記事

小松、務台両議員の回答/貧困関係シンポ...2面、中医協の論点...3面、医科の個別指導...4面、疾患別処方/医療研報告...5面、理事会便り等...6面、協同組合ニュース...7-8面

消費税・生活保護法・TPP関係 国会行動で県関係議員に要請

長野県保険医協会では、10月24日、東京で開かれた「いのちを守る国民集会」に合わせて、鈴木会長、市川副会長らが議員会館に向く独自の国会行動を行い、県関係の国会議員への要請を行った。

当日は消費税、生活保護法改正、TPPについての要望書をもって議員室を訪問、10月6日に松本で開催した貧困問題を考えるシンポジウムの資料も示しながら、今回要望する3点の問題は低所得者層に更に打撃を与え、貧困と格差を拡大することにつながることを説明。消費税増税に関しては実質上、法人税減税とセットであり国民は納得できない点や長野県議会からも軽減税率の検討要望の意見書が出されており、医療には究極の軽減税率であるゼロ税率を適用すべきだということを主張、生活保護では、現在も利用率が低い中で申請のハードルを高くすることで生

活保護が受けにくくなること、県内でも就学援助を受けることも増えており8月からの基準引き上げと今回の改正は特に母子家庭に影響が及ぶとし、捕捉率の調査などでもっと実態を把握した上で政策を考えるべきといった点を強調した。

TPPについてはIAの学習会でもほとんど経済効果がなく、その本質は日本の法律や制度をアメリカの多国籍企業のためのルールに代えてしまうことだと指摘されていることや米韓FTAをみてわかるように医療分野への影響も大きく国民皆保険制度が空洞化する点などが問題だと訴え、要望の実現を求めた。小松、務台各衆議院議員と北澤議員政策秘書とは議員室で懇談、要望書に対する小松衆議院議員と務台衆議院議員の回答要旨は2面に掲載。

誰もが安心の介護保険求め 各立場から参加による県民大集会

11月2日、「だれもが安心の介護保険をもとめる県民大集会」が安曇野市で開催された。集会は勇壮な太鼓演奏のアトラクションで開幕し、介護を必要とする方やその家族、介護職員ら500人以上が参加があった。

介護現場からの報告に続いて勝田登志子氏(認知症の人と家族の会全国副代表、社会保障審議会介護保険部会委員)の基調講演があり、質問や意見も多数寄せられ熱心な討論が行われた。

はじめに家族、ヘルパー、ケアマネジャー、行政の代表者がそれぞれの立場から報告。認知症の父親の介護のために休職中の男性は、毎日の介護疲れの状況を語るとともに、介護保険は不十分ではあるが心の支えであり使いやすい制度にして欲しい

と訴えた。勝田氏は介護保険制度改悪の方向性について講演し、要支援1、2の市町村事業への移行は大問題だと指摘した。また、会場からの質問や意見にも丁寧に答えていった。

最後に「集会を契機にわたしたちのぞむ介護のあり方を学び、考え、発信したい」との集会アピールを採択。今回初めて実行委員会に参加した長野県の認知症の人と家族の会代表の関氏が閉会あいさつに立ち、社会保障全体が改悪される中で、この集会を私たちが、そして私が、何ができるかを考える出発点としたいと締めくくった。



協会も実行委員会に参加で行われた介護の県民大集会

電話相談21件に対応

保険でより良い歯科医療を長野連絡会

保険でより良い歯科医療を長野連絡会主催の「歯のなんでも電話相談」が11月3日、10時から14時まで長野局番の3回線を使い、実施され、信濃毎日新聞の催し物案内や地域新聞(無料配布新聞含む)での紹介記事を見て、東信地区を除く県下全域から20人(北信12, 中信5, 南信5)から21件の相談があった。

相談を担当したのは連絡会の構成団体の県保険医協会の歯科医師6名(役員5名, 部員1名)が二人ずつペアを組んで対



県保険医協会事務所の特設会場で電話に対応

応した。

相談内容は、欠損補綴が10件、インプラント及び歯科矯正が各2件などで、概ね回答には満足の様子だった。

相談内容と対応については、同連絡会が実施の11月17日の市民公開講座後に講座参加者の希望者のみに対応した対面相談事例とあわせて12月の歯科部会で検討評価を行う。その後例年通り概要は本誌で紹介の予定。

「命を守る」保険で 良い歯科医療の実現を求め 10・27 決起集会」が10月 27日「保険で良い歯科医療を」全国連絡会、保団連など4団体呼びかけからなる実行委員会により都内で開かれ、 集会では、アピール「歯科医療の危機

的状況を打開し、保険で良い歯科医療の実現を！」を採択した。

長野県保険医協会からは保団連理事も務める市川・林の両役員、及び事務

局が参加、両氏は集会に先立て都内2カ所で行われた街頭宣伝の内で、有楽町マリオン前の宣伝署名活動にも参加した。街頭宣伝は1時間ほどの短い時間だったが500筆ほどの署名を集めた。

集会は全国からの歯科医療関係者341人が参加があった。保団連の宇佐美宏歯科代表が開会挨拶で、総医療費に占める歯科のシェアは7%と2年連続で最低を記録していると指摘、低診療報酬と患者減にあえぐ診療所の実情を国民に発信することが必要と強調し、「歯科診療報酬の引き上げと患者窓口負担を限りなくゼロに近づける両面の運動を患者と一緒に進めよう」と呼び掛けた。

この集会に続き、展開している署名を積み上げる形で11月28日に院内集会を予定している。



有楽町街頭宣伝でマイクで訴える林、ティッシュ署名を配

この数年、世界各地で自然災害が多発している。然し乍ら忘れてしまった惨事も少なからずあると思つ。フィリピンを大災害が襲つたとの報道を聞き、薄れていた記憶が蘇る。破壊し汚染し続けてきた「大自然」の怒りなかも思いたくもなる。我が国を見舞った天災・「人災」はまさに『国難』であるが、復興は遅々として進まず、東北の人々の忍耐強さも限界ではなかつたかと心配である。メディアはどつたどつたか？被災地からの現地報道の頻度は日毎少なくなり、その熱意も薄れていくように感じられる。『国難』と大見出しを掲げ、特別番組を何本も放映したあの危機感、国民の団結を訴えていた論調は、いまや炎天下に置き去りにされた氷柱が溶けていくよつである。喉もと過ぎればなんとやら感がある。極めつけは被災地の人々を一層苦しめ、世界を仰天させたあのスピーチ！正に「恥知らず」そのものである。天災を発端とした「人災」そのものの東電福島原発の果てしなく続く汚染は、完全にコントロールされていると臆面もなく世界に発し、お祭り騒ぎで国民の目をくらませ、その隙に社会保障の格下げと国内外の大企業を利用する増税を始めとする政策をゴリ押ししてしまつた。

「内憂」が生じたら、時の為政者は巧みに「外憂」を造りだし、冷静な国民の目を欺いて来た。正に「歴史は繰り返す」である。日本とドイツの決定的に異なる点は、過去の過ちを認め、償い、歴史を検証しつつ新たな国造りをしたか否かである。未だ民主主義が根付いていない我が国は、『温故知新』の意義を大切にして前進するべきである。(EG)



この数年、世界各地で自然災害が多発している。然し乍ら忘れてしまった惨事も少なからずあると思つ。フィリピンを大災害が襲つたとの報道を聞き、薄れていた記憶が蘇る。破壊し汚染し続けてきた「大自然」の怒りなかも思いたくもなる。我が国を見舞った天災・「人災」はまさに『国難』であるが、復興は遅々として進まず、東北の人々の忍耐強さも限界ではなかつたかと心配である。メディアはどつたどつたか？被災地からの現地報道の頻度は日毎少なくなり、その熱意も薄れていくように感じられる。『国難』と大見出しを掲げ、特別番組を何本も放映したあの危機感、国民の団結を訴えていた論調は、いまや炎天下に置き去りにされた氷柱が溶けていくよつである。喉もと過ぎればなんとやら感がある。極めつけは被災地の人々を一層苦しめ、世界を仰天させたあのスピーチ！正に「恥知らず」そのものである。天災を発端とした「人災」そのものの東電福島原発の果てしなく続く汚染は、完全にコントロールされていると臆面もなく世界に発し、お祭り騒ぎで国民の目をくらませ、その隙に社会保障の格下げと国内外の大企業を利用する増税を始めとする政策をゴリ押ししてしまつた。